

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:32 (63%) ②:19 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:47 (92%) ②:4 (8%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:40 (78%) ②:9 (18%) ③:2 (4%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:47 (92%) ②:2 (4%) ③:1 (2%) ④:0 (0%) 未回答:1 (2%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:32 (63%) ②:19 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:48 (94%) ②:2 (4%) ③:1 (2%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:39 (76%) ②:11 (22%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (2%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:36 (71%) ②:13 (25%) ③:2 (4%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:38 (75%) ②:13 (25%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:34 (67%) ②:17 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

**B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。**

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 15 (30%)
  - ②学内外の FD 講演会等への参加： 19 (37%)
  - ③他大学の FD 活動の視察： 4 (8%)
  - ④その他： 4 (8%)  
・・・「文法学習における映像資料活用の研究」3 クラス、「学会等の FD に関する資料を読んだ」
- 未回答： 11 (22%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 41 (80%)
  - ②学内外の FD 講演会等への参加： 32 (63%)
  - ③他大学の FD 活動の視察： 15 (29%)
  - ④その他： 4 (8%) ・・・「文法学習における音声・映像資料活用のさらなる研究」3 クラス、  
「学会誌の FD に関する論文等を読む」
- 未回答： 6 (12%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：35 クラス（順不同）

[1] 再受講の学生にとっては、1. 授業に来ること、2. 教科書を持ってこること、3. 寝ずに授業を聞くこと、といった基本的事項も難しい場合がある。専門の授業との両立を目指して、授業時間を有意義に活用することができるよう、一層心配りをした。・・・4 クラス

[2] 昨年度に引き続き、学生が中国語への興味関心を持ったり、学習意欲を高めたりすることがいっそうできるよう、数字の発音を用いたゲームや中国語の音楽を取り入れたり、農学部の学生にとって身近な単語を紹介したりした。・・・2 クラス

[3] 中国語の会話を繰り返して練習させると同時に自分でまとめた文章を発表させることによって、リスニングや会話のレベルが少しずつ上達したと思います。

[4] 昨年度と教科書を変え、基本的なコミュニケーション力の育成と検定合格も視野に入れた基礎力養成に力をいれることになった。昨年度以上にそれぞれが発言する、または発表する機会を設け、実際に使える語学習得を目指した。また、DVD 鑑賞などの時間を確保し、文化理解の促進にも努めた。・・・3 クラス

[5] 時間配分を調節し、学生とのコミュニケーションの時間を増やした。・・・3 クラス

[6] 学生同士及び学生と先生の間でよりコミュニケーションができる体制を作ることができた。

[7] 毎回課題を出し、一人一人コメントをつけて返すことでコミュニケーションを図った。

[8] パソコンを使用した授業→授業レジュメをホームページにのせ、いつでも復習できるようにした。(欠席時にも家で復習できるように)

[9] 学部に合わせて興味、関心分野を考え、(医学部なら医療に関する単語や表現を扱うなど) 授業を行った。

[10] 板書の仕方に留意した。・・・2 クラス

[11] より会話、読みを重視した

[12] 進度が遅いという意見があったので、説明を必要十分しつつも、少し急いで進めて、予定のところまで到達できた。

[13] シラバスに沿うように努力はしたが、説明に時間がかかりすぎ、進度がシラバスと合致しなかった。

[14] 昨年度よりもシラバスに授業内容を明記した。学生の集中力を切らさぬよう、時間配分を工夫した。・・・3クラス

[15] 一年次からの学習の継続性を重視し、昨年度とは授業内容を変更した。

[16] オムニバスのため、中には留学生の日本語理解を超える内容を行う教員がいたが、今年は事前に受講者の日本語レベルを通知し、学生の理解促進に努めた。

[17] 新コース、レベルであったために、授業進捗度がカリキュラムに明記したよりも、遅れた感がある。

[18] 初中級日本語Ⅲと同様に、授業への参加度、学習者の日本語レベルにより、カリキュラムに明記したよりも進捗度が遅れてしまった。

[19] レベルが中級のため、中上級以上の学習者が多く参加した。そのため、カリキュラム準備よりも簡単な授業になってしまった。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 34 クラス（順不同）

[1] 1. 学生には出席カード（出席チェックや小テストの点数を記入）を配布し、ポートフォリオとして活用した。

2. 出席カードの裏面には、毎回、授業終了後にその日の感想や疑問点を書くように指導し、個別の状況も把握するように努めた。書かれた疑問点については、その個人に返信するだけでなく、必要な場合には、翌週以降、クラス全体に指導を広げた。

3. 再受講クラスの授業では、毎回、授業終盤にその日の授業内容を確認するテストを実施し、授業に集中するよう促した。黒板や PPT では、漫然と授業を受ける学生も多いことから、毎回、授業での内容を書き込むことのできるプリントを配布し、手を動かしながら眠気を飛ばしつつ、定着が可能になるよう配慮した。確認テストまでにも時間を設け、復習したり、質問したりできる時間を作った。

4. 再受講クラスには、再受講の学生に加えて、編入学の学生なども在籍しており、学力・モチベーションもさまざまである。全員に合わせたレベル設定は非常に難しい。そうした中で、少しでも学生達の中国語への興味・関心を高めるため、今年度は、台湾で大変人気のあった学園ドラマの映画を見せた。漫然と見るだけにならないよう、①聞き取れた単語・フレーズの書き取り、②気付いた文化差等を書くためのレポートなどを課した。終了後は学生達の方から、「他にも是非見たいので、他の映画も紹介して欲しい」という声が多数あがったので、他にも 10 本ほど、おすすめの映画を紹介した。

・・・7クラス

[2] この時間で習得する中国語はわずかではあるが、発音の基礎をしっかりと身につけた上で、限られた語彙の中でも自分について発信できるよう様々な機会を設けた。また、授業中に発音を皆の前でする機会を増やしたり、テキスト本文を暗唱し、臨場感を以て発音する訓練をするなど、実際に使うことを想定した授業内容を取り入れることが出来た。また、プロジェクターを用いて前に教材を大きく映し出すことにより、学生が下を向いたままにせず、顔を上げて集中して発音練習できるように工夫した。・・・3クラス

[3] 私としては、全力を尽くしました。これからも更に良い授業をして行きたいと思っています。

[4] 受講者が決定するのが遅かったこと、検定試験受験を前提にしているが受験者があまりいなかったこと、受講者の要求している授業内容とシラバスに乖離が見られること、受講者間のレベルに大きな差があることなど、授業内容や難易度の設定に困難があった。学生に毎回提出させている出席カードの裏の通信欄を利用し、個々の問題点や要望を把握するようにしてなるべくそれに応える内容にシラバスを修正しながら授業を行うことが出来た。しかし、朝 1 限目ということもあり、学生が時間通りにそろわなかったり、意欲が低い者が見られたりする点を改善できないまま終わってしまった。今度の課題としたい。

[5] パソコンでレジュメ、練習問題を表示し、板書の時間をへらし、空いた時間で学生の個人指導ができた。パソコンでの表示方法に関しては、もう一度考えなければならない。

[6] 復習を中心に授業を進めた。

[7] 医学部の学生は英語が優秀なのでドイツ語の単語等を説明する際に対応する英語の単語を教えた。しかし、そのために進度が遅くなってしまった。今後は英語との比較は最小にする。

[8] 本年度着任のため、まず、宮崎大学の学風や雰囲気、学生たちの学力や気質、授業に向き合う姿勢を把握しようと努めた。授業の方法としては音声・映像資料の活用においてドイツ語学習への関心を高める効果が見られた。この方面での研究と実践をより進めたい。本クラスでは映像資料を使用する際、機器の使用がスムーズでないことがあったので、今後改善したい。また、初習の語学クラスとして人数がやや多いので、学生の集中を高める工夫をしたい。期末試験の結果を見て、中間テストの導入も検討している。・・・3クラス

[9] 語学の授業で46名は多いので個別的な指導がなかなか行き届かないが、一課毎の小テストを合格するまで繰り返させることで、最低限の語学知識をクラス全員に保証することができた。またペアによる会話発表や学科毎に課題曲を歌う発表といったペアワーク、グループワークの機会を与え、学生の積極性と自主性、創造性を引き出すよう工夫した。・・・4クラス

[10] フランス語検定合格を目標にしているため、少人数で個別的な対応を行った。

[11] 日本事情第15回で就職に関するテーマを扱った際、関心と意識が高いことが判ったため、次回からは、より早い回での設定、実施を行う。

[12] 学生のレベルにより、難しいと思われる学期、簡単に思える学期があるので、レベル調整が難しい。また、中級ビジネスと言っているので、上級レベルに急きょ上げることもできないと思われる。

[13] 初めてのクラス、カリキュラムだったために、学習者のレベルがわからなかった。そのため、予定よりも遅れた進捗度となってしまった。

[14] 上級学習者の多くが単位取得目的で受講したために、レベルが非常に上がってしまった。そのため、クラス内でレベル差がしょうじてしまった。また、時間の都合上、特に院生の授業参加にムラがあるため、思ったように進んだと思っても、実際は抜けていることが多かった。

[15] 学習者のレベルが高すぎて、授業内容が簡単すぎになってしまったこと。

[16] 受講者の授業参加率により、復習主体か新しいタスク、課題の授業へ進むのかの調整が非常に難しい。理由は、院の留学生が主な割合を占めるため。大学として留学生には基本的に授業に参加をできる体制を整えることが必要である。

[17] 留学生の授業への参加度に依存することが多いので、積極的な授業参加体制を大学として整えることが必要ではないか。

[18] (1) FD 活動レポートの使いやすさの改善を図っていただきたい。何度も保存できずに最初から打ち直したため、作成に非常に時間がかかった。また、Chrome や Opera など、コンピューターウイルス感染の可能性が比較的低いとされるブラウザでも安定的に入力できるよう対応をぜひお願いしたい（これらのブラウザでは突然閉じてしまうなど致命的な事象が起こった）。

(2) 本「基礎教育／共通教育 FD レポート」と「教育文化学部 FD 委員会・授業改善シート」が紛らわしく、また、同じような質問項目も多く、別々にレポートを書く意義が不明である。二つのレポートを統合することを検討いただきたい。

・・・4クラス

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

**C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 48 (94%)      ②いいえ： 0 (0%)      未回答： 3 (6%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 41 (80%)
- ②読んで理解する： 32 (63%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 12 (24%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 13 (25%)
- ⑤討論する： 8 (16%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 11 (22%)
- ⑦その他： 12 (24%)    ……「外国語による表現」3 クラス、「外国語で自分を表現する」8 クラス、  
「2 人組で会話文を発音、発表」
- 未回答： 3 (6%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 32 クラス（順不同）

- [1] 自己紹介のために必要なフレーズをまとめたプリントを配布し、各自の中国語氏名（中国語発音）も伝えて、自己紹介ができるよう練習した（他には、大学名・学部名など）。学生の氏名の発音については、個別に時間をとって、一人一人指導・確認を行った。…7 クラス
- [2] 中国語での簡単な自己紹介に全員に取り組んでもらった。今後機会があれば自分で発言できるようにとの配慮である。…3 クラス
- [3] 自己紹介と自由会話をよく練習させました。
- [4] 中国語で作文をして、発表すること。
- [5] 文法や語彙の学習と、発音、会話の時間を分け、集中的に学習を行った。
- [6] 韓国語を話すことを中心に、発音練習を多くさせた。発音練習の際は、ペアで行わせ楽しく孤立感を与えないようにした。
- [7] 授業開始前の会話あいさつをする
- [8] ドイツ語の授業であるので、当然聞くこと、話すこと、読むこと及び書くことのコミュニケーション能力を育成した。
- [9] 単に語学知識を習得するだけでは、コミュニケーション能力は育たない。語学知識を詰め込むのではなく、少ない知識を駆使しどこまで自分の意思を他者に伝えられるかという表現力を身に付けさせることが重要だと考える。それゆえペアによる会話発表にせよ、学科毎に歌う発表にせよ、クラス全員の前で発表し、その発表に対してクラス内で投票を行い、学生相互に評価し合う機会を与え、自分の表現がどこまで他者に通じたのかを意識させるようにしている。…4 クラス
- [10] 仏検合格に必要な文章読解力とリスニング力の育成に重点を置いた。
- [11] 提供した内容に対して、意見を聞くなどを行っている。
- [12] 自分の文化の紹介を通して、他の国の文化も学びそれについて皆で語り合う機会を設けた。
- [13] 習った日本語を使い話し、相手に言われたことも聞くことができるようになる。
- [14] 進出語彙、文法を使い、聞く・話すができるかどうか非常に重要であったために、会話にも時間をさいた。
- [15] 日本語を自由に使い、意見や考えを論理的に述べるよう促したが、学習者の日本語運用力により、静かなタイプ、よく話すタイプ

に分かれてしまったように思えるところがある。しかしながら、1対1であれば、コミュニケーションに関しては問題のないレベルの日本語力があることがわかった。

[16] 与えられたお題に対してどのように論じるのか、例えば、男女平等は本当にそうか？という題に対する、自分の考え、意見を述べる、など。また、留学生なので、自国と比べると日本や宮崎はどのように映るかななどを討論させた。

[17] 毎週必ず会話の時間を取り入れ、色々想定されるパターンに対して話したり、突然話題をふられたときの対処方法、長文読解の話題についてコミュニケーションを図ることができた。

[18] 日本語を学習している留学生、特に日本語のスキルが相当程度まで高まっている上級日本語受講生にとっては、その日本語能力の活用においてコミュニケーション能力を育成することは必須である。このため、「トピック」分野である本科目では、「日本語に漢字は今後も必要か？」「英語早期教育の是非」等、すべての受講生が参加する形でクラス・ディベートの機会を設けた。・・・4クラス

**D (問 22～25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 8 (16%)      ②いいえ： 40 (78%)      未回答： 3 (6%)

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 4 (8%)      ②6～10回： 3 (6%)      ③11～15回： 1 (2%)  
未回答： 43 (84%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 7 (14%)      ②政治・経済・産業： 4 (8%)      ③自然環境・フィールド体験： 5 (10%)  
④その他： 2 (4%)・・・「観光」、「例文中の名称など」  
未回答： 43 (84%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 6クラス

[1] 地域学部の学生のみで構成されたクラスであったことから、将来的には、地域で中国語を使った活動が増えることを予測し、観光分野で見られる中国語表示・中国語での案内等について、自身の研究成果を含め、いくつかのポイントを紹介した。

[2] 日本事情の中で、農学部教員より宮崎の農林畜産水産業について紹介。また、文化面でも宮崎の生活文化を紹介。

[3] 最も特色ある活動としては、6月7日10時から17時に実施した「宮崎市の歴史と文化を知るための巡検」（ミニバスをチャータ。平和台公園、宮崎神宮、宮崎県庁、宮崎県立図書館、宮崎国際大学などを巡検形式で訪問）を実施したことが挙げられる。この巡検には、担当教員（寺尾）の他、教育学研究科学校教育支援専攻日本語支援教育専修の修士院生も参加し、観光ガイド等では知り得ない歴史文化も含め、訪問先の案内を教員、大学院生で行った。この活動によって、留学生の宮崎市内地域、宮崎大学周辺への地域理解、歴史文化理解が大いに深まった。・・・2クラス

[4] 「防災・減災リテラシー」を高めることは、本科目「メディア・リテラシー」の大きなねらいの一つである。宮崎の災害に関するウェブ記事を読み、その後、取り上げられている災害でも大きいものの一つ、昭和14年（1939）年清武川水害につ

いて、2016年7月21日、実際に清武川周辺を巡検してその規模といざという時の避難の方法について留学生自身に考察させた。

[5] 語彙力アップを主題とした本科目では、「飫肥杉」、「宮大牛乳」、「ひやじる」、「日向夏」、「キンカン」、「ヘベス」、「高千穂の釜炒り茶」、「椎葉の焼畑農産品」、「伊勢海老」、「ガネ」、「カツオ」、「マグロ」、「ハモ」、「チョウザメ」、「メヒカリ唐揚げ」、「フカ湯引き」、「マンゴー」、「パパイヤ」、「生ライチ」、「切り干し大根」、「飫肥天」、「油津魚うどん」、「宮崎牛」、「尾崎牛」、「尾鈴豚」、「じとっこ」、「チキン南蛮」、「厚焼き玉子」、「あくまき」、「長饅頭」、「ねりくり」、「鯨羊羹」、「チーズ饅頭」、「キンカン」、「レタス巻」、「芋焼酎」、「栗焼酎」、「五ヶ瀬／都農ワイン」、「九州パンケーキ」、「サンA」、「デーリィ南日本酪農」、「スクール」など、宮崎の農林水産、食品加工の特産品を、旬があるものは旬に合わせて紹介し、可能なものは試食して、宮崎の風土を理解するうえで重要な語彙力をつけさせた。このほか、「宮崎ことば」、「西諸ことば」で最重要の語彙（これらは地域に好かれる留学生となるには必須の語彙力である）を示したほか、「タチバナ」、「イペー」、「フジ」、「カキツバタ」、「ジャカランダ」、「センダン」、「カンナ」、「サルスベリ」など、季節の花を授業に用意して実際に見せ、宮崎の四季を実感させるとともに、それらの花々の宮崎での名所を紹介した。